



第39期 事業報告書

平成15年4月1日～平成16年3月31日



大成ラミック株式会社

証券コード 4994

Profile

当社は、液体・粘体包装フィルムと
高速自動充填機の両方を手がける
唯一のメーカーです。

食品業界をはじめスーパーマーケット、
コンビニエンスストア等

さまざまな業種の

包装ニーズに的確に応えて

液体・粘体包装のバイオニアとして
業績を伸ばしてきました。

経営資源を高付加価値製品に

集中・特化させ、独創的なシステムを
構築することにより、

トップブランドとしての

地位を築いています。



代表取締役社長 木村 登

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、第39期事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当期の業績

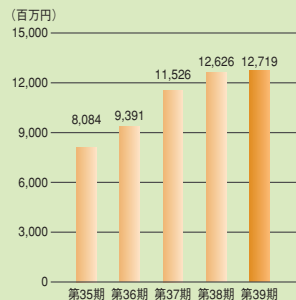
当期におけるわが国経済は、デフレ経済の進行を背景に、個人消費の低迷と地方経済の不振が続きました。当期の後半は、旺盛な外需と設備投資の持ち直しを足掛りに緩やかな底離れに向けた動きが出始め、雇用環境、為替、原材料高などの不透明要因もありますが、デフレ脱却の兆しが見えてきました。

当軟包装資材業界におきましては、食品、非食品ともに需要の横這い、単価の下落、採算の悪化を余儀なくされております。また、食品業界では10年振りの冷夏、暖冬に加えて消費低迷による競争激化の一方、年末の米国におけるBSE（狂牛病）感染牛の発見、年初の鳥インフルエンザの発生などの影響により、食品業界の安全性確保が一段と重要になっております。

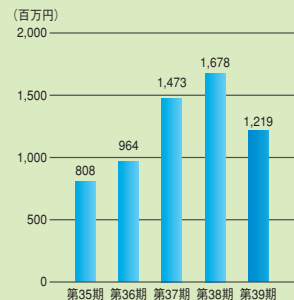
このような状況のなか、包装フィルム部門におきましては、一部外注して

Financial Highlights 業績ハイライト

■売上高



■営業利益



表紙の絵

洋画家八十山和代（やそやまかずよ）氏は、故郷石川県と京都にアトリエを構え、洋画では珍しく竹をモチーフとした作品を描き続けています。東京、京都、ニューヨーク、中国、ブラジルなどで次々と個展を開催。サロン・ド・パリ正会員、竹文化振興協会会員など幅広く活躍中です。

いた包装フィルムの内製化を進め、より一層の品質向上、安全・衛生管理の強化、短納期を図りました。当期の後半は、大阪営業所および本社特販課の新設、各営業拠点の充実など営業組織の強化を図り、新規開拓に注力、特に非食品分野への開拓を積極的に進めました。

包装機械部門におきましては、新規設置先は増えたものの、設備投資計画の見直しや延期が相次ぎ、販売台数は低迷いたしました。

その結果、売上高は127億19百万円（前期比0.7%増）となる一方、利益面では、新工場稼働に伴う減価償却費およびリース料などの売上原価増により、経常利益は12億30百万円（同23.1%減）、当期純利益は7億6百万円（同21.8%減）と増収減益となりました。

今後の経営戦略

今後の経済見通しは、個人消費は緩

やかな回復が続くと思われていますが、当社が主力とする食品業界は依然厳しい環境にあります。

このような状況のなか、包装フィルム部門におきましては、営業力の増強、新戦略商品「XA-HD」フィルムの拡販、新販路開拓による受注増に対応するため、第2期増産設備として、ラミネート機、多色印刷機を導入いたしました。低コスト・短納期一貫製造ラインを構築し、生産性の向上並びに徹底したコストダウンを図り、液体包装市場においてさらにシェアアップしてまいります。

包装機械部門におきましては、引き続き「NT-DANGAN」の拡販、新販路である化粧品、健康食品などの非食品分野へ積極的な販売活動を進め、ユーザーへの真の生産性向上に貢献することを目指してまいります。

また、将来の事業基盤強化に向けた研究開発の充実、新たな開発分野の事業化を迅速に行ってまいります。

次期の見通し

平成17年3月期の業績見通しにつきましては、売上高136億円（前期比6.9%増）、経常利益14億1百万円（同13.9%増）、当期純利益7億61百万円（同7.8%増）を予定しております。

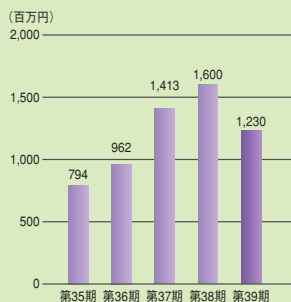
当社は、株主に対する利益配分と株主資本利益率の向上を経営の重要政策の一つとして位置づけており、積極的に株主の皆さまへ利益還元を行う方針であります。特に配当性向につきましては、前期まで30%を目安に実施しておりましたが、当期より50%に引き上げ、これを維持、向上させるよう努めます。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

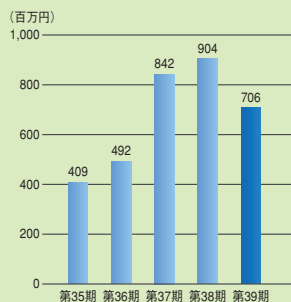
平成16年6月

代表取締役社長 **木お登**

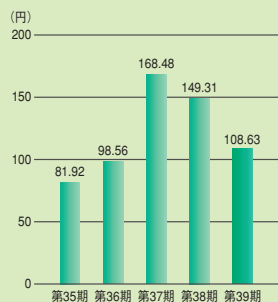
■経常利益



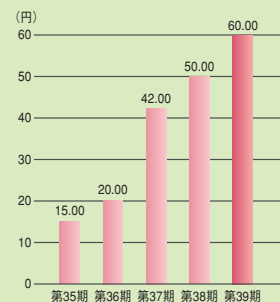
■当期純利益



■1株当たり当期純利益



■1株当たり配当金



包装フィルム部門

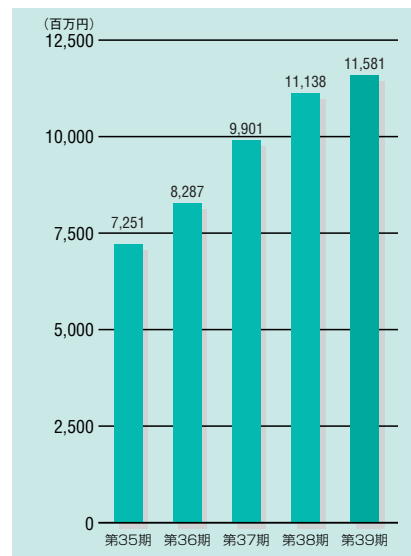
■ 事業内容

主に即席麺やお持ち帰り弁当などに別添調味料として付いてくる液体スープ、醤油、ソース、納豆のたれ、わさび、からし、ドレッシング等を入れるラミネートフィルムやレトルト食品用パウチ、トイレタリー、コスメティック関連製品の詰替用パックなどの開発・製造・販売を行っています。

当社が主力とする食品業界は、全般的な消費低迷、天候不順の影響により夏物季節商品が不振の状況でしたが、当社は、天候の影響を受けにくい納豆、マヨネーズ、ドレッシング、ラーメン関連のフィルムの受注を拡大しました。当期の後半は、おでんつゆ、なべものスープなどの秋冬物の受注に全力を挙げる一方、化粧品、健康食品、医薬部外品などの新規販路を積極的に開拓しました。また、付加価値が高く汎用性のある「XA-HD」フィルムを開発し、その拡販に努めました。

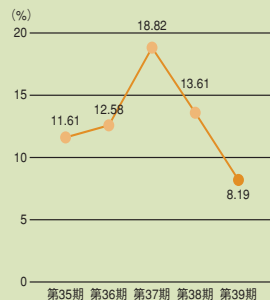
その結果、当部門の売上高は115億81百万円（前期比4.0%増）となりました。

■ 包装フィルム部門売上高推移

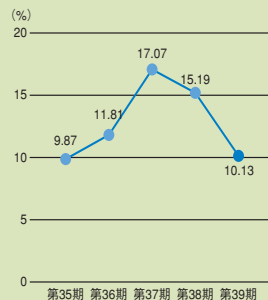


Financial Highlights 業績ハイライト

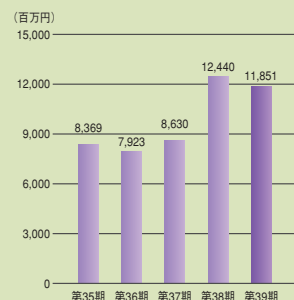
■ 株主資本利益率



■ 総資産利益率



■ 総資産



包装機械部門

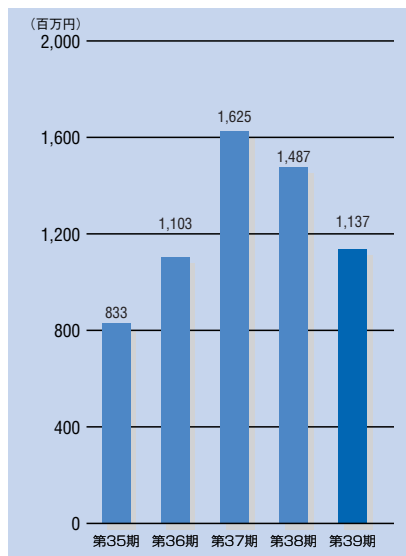
■ 事業内容

当社と日本精機（株）が共同開発した高速液体自動充填機を、液体・粘体自動充填フィルムとともに食品メーカーなどに販売を行っています。充填速度の高速化と安定化を重視した自動充填機は、「NT-DANGAN」シリーズとして「からしや納豆たれ等の少量パック専用の5・10分割機」「ストレートつゆや業務用パック等の大容量専用機」などの開発・販売を行っています。

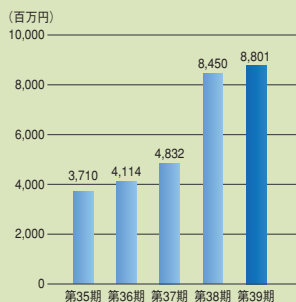
「NT-DANGAN」につきましては、食品業界における需要見通しの不透明感並びに食の安全・衛生面の設備投資優先の下、増産設備投資には慎重な判断が多く、商談や計画が延期になったものもあり、新規設置先は増えましたが、機械の売上高は前期の実績を下回りました。

その結果、当部門の売上高は11億37百万円（前期比23.5%減）となりました。

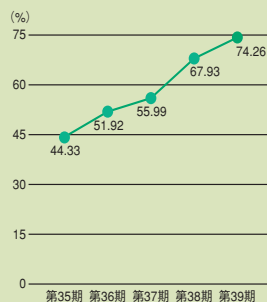
■ 包装機械部門売上高推移



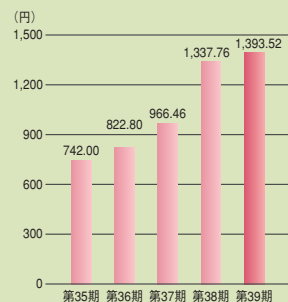
■ 株主資本



■ 株主資本比率



■ 1株当たり株主資本



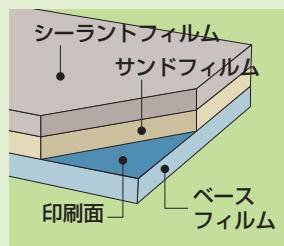
ユーザーのニーズに応えた少ロット・短納期一貫製造ライン 品質の安定性と高い生産性を提供する 独自のフィルム製造技術

めんつゆ、たれ、しょうゆ、ソースなどは、多品種・少ロット生産であるため、生産性の向上がむずかしい商品です。さらに内容物が液体であるため、漏れるというリスクがあり、液体・粘体用包装フィルムの生産には高い技術力が必要です。

大成ラミックは、この液体・粘体用包装フィルムの生産に経営資源を集中・特化し、現在ではマーケットシェア30%を占めております。今回の特集では、この包装フィルムの生産工程についてご紹介します。

多層ラミネートフィルム

一見、一枚に見える液体・粘体用包装フィルムは、内容物を保護するために、それぞれ特性の違ったフィルムが貼り合わされています。実は0.1ミリ以下の厚さですが、2～7層も貼り合わされています。



包装フィルム組み合わせ例

- ベースフィルム：一番外側のフィルム。印刷適性に優れたフィルムを使用します。
- サンドフィルム：パッケージされる内容物を紫外線や酸素から保護するため、アルミ箔などを用いた機能性フィルムを使用します。
- シーラントフィルム：一番内側のフィルム。フィルムどうしを熱融着で貼り合わせ、小袋にするためのフィルムです。

豊富な経験と専門知識を持つ営業スタッフが、材質や形状を設計し、数万種類におよぶ組み合わせの中から、ユーザーや消費者のさまざまな要望に応じて、最適なパッケージシステムを提案します。



コンピュータを使ってデザインを作成します。これを金属製の筒の表面に彫刻し、凹版を作成します。7色のデザインを印刷する場合、色ごとに7本の凹版が必要になります。



彫刻された凹版を使って、透明なフィルムに1～7色のデザインを印刷します。7色が必要とされるデザインでも、一度で印刷することが出来ます。

短納期

出荷

企画

製版

グラビア印刷

製袋

スリッター

エイジング

エクスト
ルージョン
ラミネート

ドライ
ラミネート

ラミネートされたフィルムを、さまざまなサイズや形状に合わせて、1枚ずつ袋状に製造します。内容量が比較的多い商品（レトルト食品や詰め替え用洗剤など）に使用します。



ラミネートされたフィルムを、小袋の幅ごとに裁断し、小さなロール状に巻き取ります。巻き取られたロールは充填機（NT-DANGAN）により内容物が充填されます。



NT-DANGAN TYPE III

貼り合わされたフィルムの接着強度を高めるため、高温の室内に一定時間保管し、フィルムの品質を安定させます。



数種類の樹脂をブレンドし高温で溶かして、当社独自のシーラントフィルムを製造します。印刷またはドライラミネートされたフィルムにさらに貼り合わせます。



印刷されたベースフィルムに機能性フィルムを接着剤で貼り合わせます。内容物に応じて、特性の違った機能性フィルムを数回貼り合わせることもあります。



ラミネート

ラミネートには内容物の性質に応じて、ドライラミネートとエクストルージョンラミネートの2種類の方法があります。

特にエクストルージョンラミネートでは、高速充填に適した独自のシーラントフィルムを製造しております。

内容物の性質に適したフィルムを製造することは、ユーザーの生産性向上と安定した品質を提供するには欠かせない当社独自の強みです。

貸借対照表

科目	第39期	第38期
	平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
●資産の部		
流動資産	7,260	7,606
現金及び預金	2,100	2,713
受取手形	1,266	1,187
売掛金	2,477	2,337
たな卸資産	1,279	1,199
その他	140	173
貸倒引当金	△ 3	△ 4
固定資産	4,591	4,833
有形固定資産	4,029	4,254
建物	2,123	2,271
機械及び装置	689	761
土地	839	835
その他	376	386
無形固定資産	119	130
投資その他の資産	441	447
投資有価証券	253	238
その他	202	226
貸倒引当金	△ 14	△ 17
資産合計	11,851	12,440

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント！

新工場建設費など前期末払分として9億19百万円を支出したことにより、現金及び預金が減少しました。
短期の負債に対する企業の支払い能力を見るための指標である当座比率*は、202%と高水準を維持しています。

*当座比率=(現金及び預金+受取手形+売掛金)÷流動負債

(単位:百万円)

科目	第39期	第38期
	平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
●負債の部		
流動負債	2,894	3,836
買掛金	2,067	2,107
未払金	340	1,218
未払法人税等	217	352
未払消費税等	100	—
賞与引当金	151	145
その他	17	12
固定負債	155	153
退職給付引当金	97	97
役員退職慰労引当金	58	55
負債合計	3,049	3,989
●資本の部		
資本金	2,408	2,408
資本剰余金	2,896	2,896
利益剰余金	3,487	3,149
その他有価証券評価差額金	9	△ 3
資本合計	8,801	8,450
負債及び資本合計	11,851	12,440

ここがポイント！

前期利益処分分の利益剰余金を積み上げたことにより株主資本が増加し、当期末の株主資本比率は前期末比6.4ポイント上昇し74.3%になりました。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	第39期	第38期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
売上高	12,719	12,626
売上原価	9,665	9,203
売上総利益	3,054	3,422
販売費及び一般管理費	1,834	1,744
営業利益	1,219	1,678
営業外収益	25	16
営業外費用	14	94
経常利益	1,230	1,600
特別利益	41	33
特別損失	11	66
税引前当期純利益	1,260	1,567
法人税、住民税及び事業税	558	692
法人税等調整額	△4	△29
当期純利益	706	904
前期繰越利益	183	103
中間配当額	157	116
当期末処分利益	732	892

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

包装フィルムの売上高は前期と同水準でしたが、包装機械の販売台数が減少したため、売上高総利益率は前期比3.1ポイント減少し24.0%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第39期	第38期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	771	1,281
投資活動によるキャッシュ・フロー	△523	△2,424
財務活動によるキャッシュ・フロー	△345	1,982
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△97	839
現金及び現金同等物の期首残高	1,388	548
現金及び現金同等物の期末残高	1,290	1,388

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

財務活動によるキャッシュ・フローの資金の用途は、配当金の支払額3億45百万円です。

利益処分

(単位:百万円)

科目	第39期	第38期
	平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
当期末処分利益	732	892
任意積立金取崩額	2	2
利益処分額	593	711
配当金	220	189
役員賞与金	22	22
任意積立金	350	500
次期繰越利益	141	183

注：記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ここがポイント!

当期は、中間配当金（1株当たり25円）、期末配当金（1株当たり35円）を実施し、年間配当金は1株当たり60円となりました。これにより当期の配当性向につきましては55%となっております。

TOPICS 1

大阪営業所・本社特販課 新設

当社は、さらなる業容拡大を図るため、大阪営業所と本社特販課を新設しました。

大阪営業所は、近畿地区のより一層の市場拡大および地域に密着した営業展開を進めます。

本社特販課は、近年の健康ブームを反映して年々市場が拡大している非食品分野（化粧品、健康食品、医薬部外品など）を積極的に展開してまいります。



大阪営業所が入っているビル外観

TOPICS 2

第2期増産ライン完成



第2期増産ライン（多色印刷機）

本社新工場に第2期増産ラインとして、ラミネート機、多色印刷機を導入し、平成16年5月に立ち上げました。増産設備は、新規販路開拓による受注増に対応し、少ロット・短納期生産の能力を一層高め、品質の向上とコストダウンを図ります。

生産能力の増強により、液体包装市場において、さらなるシェアアップを目指します。

■ 会社概要 (平成16年3月31日現在)

社 名 大成ラミック株式会社
Taisei Lamick Co.,Ltd.

所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1
〒349-0293

代 表 者 代表取締役社長 木村 登

設 立 昭和41年3月22日

資 本 金 24億860万円

事 業 内 容 プラスチックフィルムを中心とした液体・粘体自動充填用フィルム「XA」シリーズ等の開発製造販売
高速液体自動充填機「NT-DANGAN」、周辺機器の開発販売

従 業 員 数 268名(男子231名 女子37名)ほか
臨時従業員66名

主 な 事 業 所 本社・工場(埼玉県南埼玉郡白岡町)

営 業 所 東北、名古屋、大阪、福岡

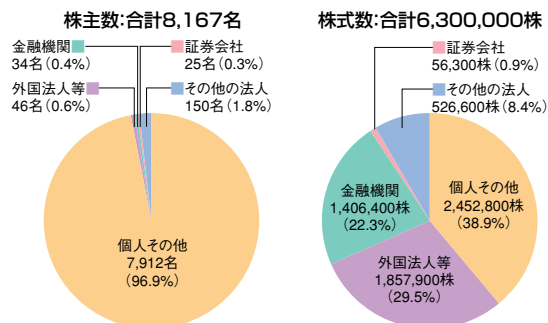
■ 役員一覧 (平成16年6月23日現在)

代表取締役社長	木 村 登
専務取締役 (管理本部長)	木 村 義 成
常務取締役 (R&D本部長)	二 瀬 克 規
取締役 (営業本部長)	村 山 淳 司
取締役 (営業本部副本部長)	古 村 博
取締役 (生産本部長)	山 口 政 春
常勤監査役	里 村 睦 男
監査役	山 本 実
監査役	長 谷 川 忠

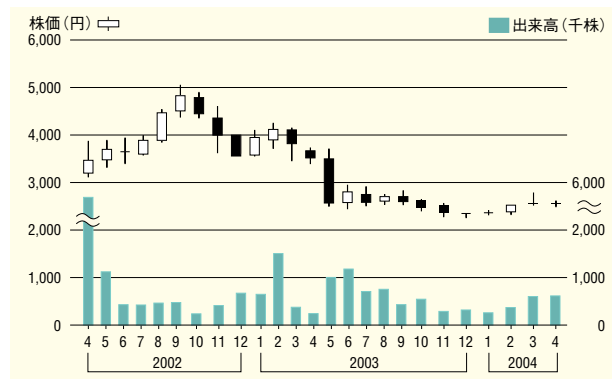
■ 株式状況 (平成16年3月31日現在)

- ・ 会社が発行する株式の総数 20,000,000株
- ・ 発行済株式総数 6,300,000株
- ・ 株 主 数 8,167名

■ 所有者別株式分布 (平成16年3月31日現在)



■ 株価／出来高の推移 (平成16年4月30日現在)



株主優待のお知らせ

決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
配当金受領 株主確定日	利益配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
1単元の株式数	100株
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付および 電話照会先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告の方法	日本経済新聞に掲載いたします。 ただし、商法特例法第16条第3項に定める 貸借対照表および損益計算書に係る情報は、 http://www.lamick.co.jp/kessan/index.html において提供いたします。

当社は、株主の皆さまへ日頃の感謝の気持ちを込めて、年2回株主優待品を贈呈しています。

毎年、3月31日または9月30日現在の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載された当社株式を100株以上所有している株主の皆さまに「食品詰合せ」をお届けいたします。

なお、今回の発送は6月末頃を予定しております。



前回送付した食品詰合せ写真



商標の由来

日本民族最古の包装資材は、主として竹の皮が用いられていました。言い変えれば、我が国包装文化の原点であります。竹の子は長じて竹になり、成竹は強靱性・柔軟性に最も優れ当社の主力商品である各種ラミネート製品に求められる強靱かつ柔軟性を併せもつ条件に適合するものであります。

社 名 大成ラミック株式会社 (Taisei Lamick Co.,Ltd.)
所 在 地 埼玉県南埼玉郡白岡町下大崎873番1 〒349-0293
お問い合わせ 総務部 IR担当：TEL 0480-97-0224 FAX 0480-97-0204
ホームページ <http://www.lamick.co.jp/>

●本報告書は、100%再生紙を使用しています。